



中国東北部での拡販を目指して
株式会社不二越
(那智不二越(上海)貿易有限公司 瀋陽支店)

那智不二越(上海)貿易の瀋陽支店は、2010年に、中国の東北地方、特に工作機械メーカーが集積する遼寧省で、油圧ユニットの販売拡大を狙いに設立し、現地メーカーの開拓はもとより、日系メーカーの現地進出にも積極的に対応しています。

支店がある瀋陽市は中国東北部(旧満州)の遼寧省の省都で、北海道の函館市とほぼ同緯度。遼寧省の総人口4,389万人のうち725万人が瀋陽市で暮らし、漢族がその9割、残りは満洲族、回族、蒙古族、朝鮮族などで構成されています。

瀋陽という地名は「瀋水の陽」に由来し、市内を流れる瀋水(現在名は**浑河**)の北にあるため、風水の「山北為陰、水北為陽」から名づけられました。街のあちこちに旧満洲時代の建物が残り、東京駅によく似た赤レンガ造りの瀋陽駅や、郵便局などは今も現役で使われています。

大陸性のモンスーン気候で、夏は30℃を超える日もありますが、しのぎやすい。しかし、10月に入るやいなや気温は急激に下がります。1月の平均気温はマイナス17.5℃までになり、近年、経済発展と共に防寒着がファッションブルになってきていますが、格好を気にしてられないほど寒い。

多くの人が、中国の他の都市同様マンションなどの集合住宅に住み、ほとんどのマンションには、極寒の冬を快適に過ごすよう床暖房が施されています。床暖房用の温水は地域毎に熱源公司から供給され、街には石炭を燃料とする熱源公司の煙突が立ち並んでいます。

瀋陽を含む東北地方は、味が濃くて塩辛い料理が多く、水餃子が中国では一般的なのに対し、ここでは茹でた餃子に酢醤油をかけます。毎年11月頃から、冬の保存食の白菜を発酵させた独特の漬物「酸菜」づくりが盛んに行われ、随所で白菜を干す光景が見られますが、最近では外資系フードチェーン店が増え、瀋陽の食文化も変わり



有名な瀋陽故宮



瀋陽駅の風景



中国の古銭の形をした方圓大廈。瀋陽支店が入っています。

つつあります。

ここ数年における瀋陽の変化はめざましく、2013年9月に瀋陽を中心に開催された国体に向けての建設ラッシュが起こり、空港・鉄道・道路などインフラストラクチャーの整備はかなり進み、3年前まで瀋陽と大連間の移動に5時間かかっていたものが、高速鉄道の開通によって半分までに短縮されています。

今後の取り組みとして、政府が東北地方の振興を重点的に支援していることから、那智不二越(上海)貿易の瀋陽支店では、工作機械メーカーへの油圧ユニットの拡販だけでなく、成長著しい重工業やエネルギー産業などにも、多種多様なNACHI商品を拡販、浸透させていきます。